

MACF 礼拝説教要旨

2021.05.09

「我らの生き方」

12:13 聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。

12:14 あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。

12:15 喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

12:16 互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。

12:17 だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。

12:18 できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。

+++++

1) 助力・支援・もてなし

12:13 聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。これはイエス様が教えた「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい」というメッセージと符合します。

マタイによる福音書 22 章

22:37 イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』

22:38 これが最も重要な第一の掟である。

22:39 第二も、これと同じように重要である。

『隣人を自分のように愛しなさい。』

他者の貧しさを自分のものとして味わい、感じ、それを支援するための心を育てる意識がとても大切です。教会は国教化されるまで、実は貧しい人々たちによって支えられてきました。迫害の対象だったからです。

でも、そこには他者の苦勞を自分のことのように感じながら支える心が存在していました。

歴史的にはヨーロッパでは国教化され、税金が投入され、豊かになり領地を増やしたり領土を確保することで大きな建物を建ててその力を誇示するような風潮が蔓延しました。もはや最初の生き方を捨ててしまったような姿がここにあります。そして、現代における一番顕著にそういう気分を味わえるのはフランスからスペインに続くサンチャゴ・コンポステーラにおける巡礼者へのもてなしかもしれません。

日本では「お遍路さん」と呼ばれる巡礼の旅が四国で有名ですが、根底には同じような意識があるように感じます。そこにあるもてなしの姿は「お大師さんのおかげで今があるのだから、その巡礼者を励まし支えることは当たり前」という意識があります。

そもそも、教会における関わり合いの中にも「イエス様に支えられてきたわけですし、そのお方に愛されているあなたの苦しみや悲しみは私も共有させてもらいましょう。」という意識が根底にあるはずです。

しかも、そういう支援的なもてなしを「無理せず、当たりのこととして」実行できることが最善なのだと思います。

2) 迫害者への祈り

12:14 あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません

これは、どちらかといえば、難しい提案ですね。でも、これもイエス様が教えておられる大事な命令です。

迫害者を呪うのではなく、祝福を祈りなさいというもの。

根本的には「裁くな」という命令がありますので、その線にそって「最終的な決着は神様がつけてくださる」と信じ無闇矢鱈にいじめるとか、呪うとか、仕返しを考えるのではなく

「あなたにとっての最善がなされますように」と祈りつつ、その人をイエス様にお任せするのです。心の中では「イエス様、この人をあとでひどい目に合わせてください」と言いたくなるようなこともあると思います。心でそう思っても良いのです。それは極めて自然な反応だと思います。ただ、それを行為、行動に表現せず、心に止めるのです。そしてイエス様にお任せするのです。

怒りや呪いの心で相手に向かっていっても相手の怒りを買うだけでしょう。そして、足元をすくわれてしまうことがあります。

ですから、喧嘩はしないように、黙って、神様に判断をお任せしておけば良いのです。神様の裁きの基準は私たちのものと違いますので、間違いなく不思議な形でそれは執行されると思います。間違いなく裁きは実行に移されます。

### 3) 共感・共苦の心を育てる

有名な言葉「喜ぶものとともに喜び、泣くものとともに泣きなさい」

これも意外と簡単なようでむずかしいものです。

というのも、私たちは関心がなければ、全て、どんなことでも「他人事」になってしまうからです。

コロナでどんなに大勢の人たちが苦しんでいるニュースを見ても、私たちにはあまり響いてこないのです。情報自体が「他人事」としてしか伝わってこないからです。

また、日本人はもしかしたら、物事を「他人事」として見ようとする癖もあるかもしれません。

自分の国のことでさえ、政治家の不正や原発事故の全く目処の不明な工程についてもどこか「他人事」で済んでしまっているのです。

### 4) 謙遜・平和を大切に

12:16 互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。

12:17 だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。

12:18 できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。

どんなことで思いをひとつにできるのでしょうか。それは「主イエスに生かされている」という一点です。

他の部分についてはいろいろな考えや感じ方があり、議論もあります。

私が頑張って生きてきた面もあるかもしれませんが、根底的には「神に生かされ、イエス様に生かされ、支えられて

今があります」みんなそうなのです。すべてのいのちが、そうなのです。

「イエス様のおかげで」ということを土台に関わることができたら、謙遜さが身に付きます。

そもそも、おかげさまでという日本語もあまり聞かれなくなりましたね。

「おかげさまで」とか「お互い様」という言葉が聞かれなくなり「わたしがこれやりました」「この成果はわたしの実績です」という雰囲気が出てきています。

今日、読んだ聖句が心に留まりますように。

そして、イエス様ご自身が語られたこの言葉にもしっかり心を向けたいと思います。

パウロの主張と同じです。

マタイによる福音書

5:43 「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。

5:44 しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

5:45 あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。

5:46 自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるのか。徴税人でも、同じことをしているではないか。

5:47 自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになろうか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。

5:48 だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」

祝福がありますように。

++++

「MACF 礼拝映像」はこちらです。

<https://youtu.be/lsw3zzpqJAc>